

ティーチング・ステートメント

所属 横浜商科大学

名前 大島 研介

作成日 2020年2月5日

【責任】

商業科の教職課程を担当する教員であり、心理学を専門とし教育・研究活動を行なっている。心理学に関わる科目（心理学・教育心理学）、社会力基礎科目（キャリア形成・社会力基礎演習）、ゼミナールを担当している。また、バスケットボール部と大学祭実行委員会の顧問として課外活動の支援を、学生専門部会に所属し、学生の支援を行っている。

【理念】

1つ目の理念は、自分で考え、自律的に活動する学生の育成である。学生が、何事にも自らで考え、自律的に実行する習慣をつけることで、様々な活動を実行することに喜びを感じ、工夫を持って取り組む人材となることをサポートする。

2つ目の理念は、知的探究の場としての教育である。教員が一方的に専門的な知識や経験を伝達するだけでなく、それに対する学生のリアクション（理解や考え、関連する知識の探究）を再度取り込んでいくことで、教員と学生間だけでなく、学生間での知的探究と共有の場として機能させることで、学生のみならず、教員自身も教育活動に喜びを持って取り組めることである。

【方針・方法】

1つ目の理念（自分で考え、自律的に活動する学生の育成）に対する3つの方針

「自分で考える力をつける」、「自律的なチャレンジを自他ともに認める環境づくり」、「生きた教材としての教員の研究プロジェクトの活用」、に基づいて、教育を行う。

方針1：自分で考える力をつける

- 心理学の講義では、一義的な答えに定まらない現実における問題を提起し、講義で伝達した知識を踏まえて、自身の考えをまとめ、アウトプットする課題を実施し、フィードバックを行った上で、期末試験において、同様の問題の設問を設置している。
- 講義内の学生とのやり取りでは、回答できるよう十分な時間をとり、「わからない」などの考えることを放棄している回答の場合には、設問を分解し、問い直すことで、必ず回答ができる機会となるよう試みている。
- ゼミナールでは、自分の研究テーマと目標を決め、週ごとの活動計画をたて、毎週報告するルールに基づき、個別の研究プロジェクトを行っている。実行可能性や目標への到達を考えて、計画を立てる必要があるなど、自分自身で考え実行していく必要がある。

方針2：自律的なチャレンジを自他ともに認める環境づくり

- ゼミナールでは、個別の研究プロジェクトを企画しているが、教員の専門分野に近い基

本のテーマ以外でも、自分が調べたいことや関心があることをテーマに選ぶことができ、テーマの多様性を推奨している。

- 学生とのやり取りにおいて、自分の考えや意見、提案をした時には、内容の如何にかかわらず、試みに関して褒めた上でコメントするよう心がけている。

方針3：生きた教材としての教員の研究プロジェクトの活用

- 教員が実施している研究プロジェクトは、「自分で考え、自律的に活動する」試みの生きた教材となる。講義やゼミナールの中で紹介することで、事例として考える題材になる。

2つ目の理念（知的探究の場としての教育）を実現するための2つの方針

「学生とのコンタクトのチャンネルを増やす」、「個人の知的探究の成果を共有する仕組み」に基づいて、教育を行う。

方針4：学生とのコンタクトのチャンネルを増やす

- 心理学の講義では、授業後の質問などの直接対話、google classroom を通じてのコメントのやりとり、電子メールによる質問の3つのチャンネルを用意している。

方針5：個人の知的探究の成果を共有する仕組み

- 心理学の講義では、講義内容と関連する動画やウェブの記事、書籍などのメディアを募集し、良いものを受講生に対してシェアする試みを行っている。これにより、学生が授業内容のどこに関心があり、新たに自らが探求した内容を教えてくれることで、教員や他の学生にとっても新しい知の発見となっている。
- 心理学の講義では、講義内容に関するコメントを毎回、募集しており、次週の講義の際にとりあげ、回答を行うことで、知識の伝達に対するリアクションを拾い、フィードバックを行うサイクルを通じて、知的探究を深める機会となっている。
- ゼミナールでは、個別の研究プロジェクトを実行する中で見つけた発見や調べた知見を毎週ウェブで報告し、月ごとにまとめて他の学生に対して報告し、議論する試みを行っている。

【評価・成果】

授業評価アンケートの満足度（総合的に判断して、この授業に満足している）において、良い評価（とてもそう思う・そう思う）の平均は、2019年度春学期の4科目は76%であったが、秋学期の5科目の満足度の良い評価の平均は90%であった。

大学祭実行委員会の顧問として、第52回飯山祭の開催に尽力した。

【目標】

心理学の講義を通じて、「自ら考える力を身につける」仕組みを作り上げる。

ゼミナールにおいて、教員の専門に興味関心のある学生と共同で研究を行い、学内・学外にて成果報告する仕組みを作り、「自分で考え、自律的に活動する」挑戦を実地で体験する機会を提供する。